

「教えてブリヂストンさん

—タイヤが知ってる今回のレース」

**SUPER FORMULA RD.2**

**富士スピードウェイ編**



©RACING NEWS formula 2014

牧野：寺西さんお疲れ様です。毎度おなじみの路気温から教えてください。

寺西さん：レース1は、始まりが気温22℃に路面33℃（22/33℃）、レース中盤が22/32℃、最後が22/34℃。レース2は、始まりから21/34℃、22/32℃、20/30℃だったね。

牧野：1日中ほとんど変わらずですが、最後にちょっとだけ下がったんですね。

寺西さん：15時半くらいがピークだったかな。

牧野：確か、金曜日の走行時が25/36℃で予選が23/38℃でしたよね。3日間通しても、大きく変化はなかったですね。

寺西さん：今日が一番涼しかったかな、風もなかったし。

牧野：でも、これだけ天気がいいと路面温度はもうちょっと上がるかなとは思ったんですが。

寺西さん：意外にそうでもなかったね。



毎回、ブリヂストンのホスピタリティブースで提供されているランチ。

ブリヂストン本社近くの八重洲地下街にある「pasta&cafe CHAYA」さんのもちもち生パスタ。

ブリヂストン美術館へ行く際に、ぜひ足を運んでみては？もしくはブリヂストンユーザーになってレースに出場すれば、サーキットでも食べられるかも。

---

牧野：まずは土曜日の予選から教えてください。今回は変わったタイヤの使い方などありましたか？

寺西さん：今回は、Q1の結果がレース1のグリッド順になるから、早めにニュータイヤを投入したチームが多かったね。Q1の走り出しでは、1、19、20、36、37、40号車以外のクルマが最初からニュータイヤを履いていたね。その中の、32と2以外のところは最後にもう1セット履いて、合計2セットをQ1で使ってたね。

牧野：32はエンジントラブルでしたね。

寺西さん：2はどうしちゃったのかなあ？それ以外は特に問題はなかったね。Q2は31がストップして赤旗になって、残り時間を少し延長してセッションが再開したけれど、タイム更新をできたのは39と36と1だったかな。と言っても、39と36は赤旗前にベストタイムが出ていなかったから、純粋にタイム更新できたのは1だけだね。やはりニュータイヤでアタックをして、いったん熱を冷ましてしまうとタイムは出にくいね。さすがに残り2分50秒くらいじゃ、走れたとしてもアウトラップ入れて2周だし、タイヤも暖まらなかつたと思うよ。他には19は、赤旗中にニュータイヤを履いて待機していたけれど走らなかったね。

牧野：Q3は・・・あれ？7、8、39はQ1で2セット使っているってことは、ユーズドタイヤだったってことですか？

寺西さん：いや、違うね。午前中のフリー走行でニュータイヤを温存していたんだよ。3、7、8、32、38、39が、午前中はニューでアタックしなかったね。

牧野：なるほど。Q1で2セット使うために温存していたんですね。タイムは金曜日と比べて、だいぶ上がりましたね。金曜日のベストタイムは36号車の1分24秒497で、コースレコード（CR）は1分22秒718。CRが出たのが去年のJAF GPで涼しくなったからのタイムだし、金曜日の練習走行のタイムを見ている限りじゃ、CRの更新は無理なのかなと思っていたのですが、あっさり更新してしまいました。

寺西さん：うん。コースレコードは無理だと思ってたんだけどね。路面の状況もどんどん良くなってグリップしていくからね。

牧野：今回のアタックラップは何周目がベストだったのでしょうか？

寺西さん：そうだね、今回はほとんどが計測2周目でアタックしているね。Q3は一貴とナレインだけ計測3周目になっているけれど、路面温度が30℃以上ある時期は、計測2周目がベストでしょう。

牧野：ということは、11月の最終戦以外は、計測2周目がアタックラップになるということですね。

---

決勝の方は、今回は2レース制で、レース1が25周、レース2は35周でタイヤ4輪交換義務付きのレースでしたが、タイヤの動きでなにかドラマはありましたか？

寺西さん：ルマン勢は割と早めにピットイン（平川1周目、デュバル6周目）したのだけれど、パツとしなかったかな。ロイックは終盤になって1分25秒台に入れていたけど、前半は26秒台と遅かったね。ガソリンも多かったのかもしれないけれど、そこがちょっと残念だったかな。今回は順当に、真ん中（17-18周目）でピットインがベストだったのかな。

牧野：レース1と2のベストタイムを比較すると、レース1は1分24秒834（オリベイラ）でレース2は1分25秒047（オリベイラ）レース1の方で、全体的にもレース1の方が速かったような気がするのですが、今回はレース前のあるサポートレースは86/BRZのレースのみです。86/BRZレースのタイヤが路面コンディションに影響を及ぼしたって可能性はあるのでしょうか？

寺西さん：その影響はあまりないと思うけどね。レース2の方がガソリンを多めに積んでいるから、その分レース1よりもタイムが落ちていたのだと思うよ。

牧野：レース中、どこら辺からタイムが落ちてくるのかみていたのですが、なかなかタイムの落ちは見られませんね。

寺西さん：ただ、20周ぐらいがこのタイヤのピークで、そこからは徐々にタイヤは落ちていくということがだいたいわかってきたよ。

牧野：20周が境目ですか。それでもタイムを追っていると、急激にわかるようなタイムの落ちはありませんでしたね。

寺西さん：そうだね。実際にはタイヤは垂れてきているんだけど、ガソリンが減ったことで車重が軽くなってタイムが上がっていったことだね。その動きがあるのが20周目から25周目あたりなのかな。

牧野：他に気になった点では、記者会見で一貴選手が「タイヤが硬い、硬い」と何度も言っていたのですが、他にタイヤの硬さについてコメントをしているドライバーさんはいるのでしょうか？

寺西さん：うーん、あまりないね。トムスからは今回、いろいろと言われたけれど、他から特に要望とかは聞こえないね。

牧野：トムスは開発テストも担当していてたくさんデータもありますし、セットアップに関してひとつ先の次元に引っ張られてたりするから、そういう声が出てきたりするんですかね。

寺西さん：他のチームはそれどころじゃないところもあるからね。それに、7月の富士ではもっと路気温があがって、このタイヤで十分対応できるんじゃないのかな。

牧野：一貴選手からは、暑くなれば余計に硬く感じようになる、という声もありましたが、どうなるんでしょうかね。

寺西さん：もっとソフトめのタイヤにすると、一気にタイヤが垂れてタイムもドーンと落ちるけどな。

牧野：タイヤマネージメント勝負でレースを面白くするという方法もありますよね。

寺西さん：でも、そうするとね、今度は「タイヤが垂れるのが早い」って不満の声があがるんだよな。

牧野：（苦笑）

---

牧野：次戦も同じ富士スピードウェイですが、今回よりも路気温が上がってどのくらいタイヤに変化が起きて、レースにどう影響するかが注目ですね？

寺西さん：気温はほぼ間違いなく30℃前後で、路面温度は40℃になるわけだから。路面温度が40℃になった時に、チームがセットアップでどこまでタイヤを持たせられるのかが重要なポイントになるでしょうね。

牧野：決勝も1レース制に戻って走行距離が長くなります。そうすると1スティントあたり、タイヤが頑張る量も増えるわけですよ。20周以降、タイヤがどう変化するのか、そのあたりも注目

して見えます。寺西さん、今回もありがとうございました。